

# ◎ シリーズ 長岡京歴史散歩

(125)

長岡京校区の遺跡

— 井ノ内の古墳群 —

長岡第十小学校の校区である市の北部は、今では京都市・向日市との市境となっていますが、長岡京が造られたころには、東西の重要な道路である二条大路が通る位置にあたるなど、貴重な文化財が埋蔵されている地域です。

特に古墳時代には、主長墳として井ノ内稲荷塚古墳や井ノ内車塚古墳などが所在する周辺に、井ノ内古墳群や芝古墳群などの古墳群が展開する、古墳の密集地域であることがわかっています。



▲ 井ノ内における古墳の分布

井ノ内稲荷塚古墳は、全長46<sup>センチ</sup>の横穴式石室を有する前方後円墳で、石室の中には木棺が納められていました。墳丘には埴輪や葺石はありません。6世紀前半の古墳です。

井ノ内車塚古墳は、全長36<sup>センチ</sup>の前方後円墳で、埴輪を伴っています。石室をもたず、木棺直葬と考えられています。時期は、これも6世紀前半の範疇にはいる古墳です。

これらの古墳の間では、これまでに4基の古墳が調査で見つかり、井ノ内古墳群・1号墳〜4号墳と呼んでいます。いずれも方墳で、一辺12<sup>メートル</sup>〜17<sup>メートル</sup>の大きさです。3号墳からは埴輪が見つかっています。他に古墳の周辺で土壙墓も数基検出されています。

このように井ノ内では、前方後円墳、小型方墳、土壙墓と各階層の墓がセットで見つかつており、古墳時代の墓制を考える上で重要な地域となっています。

これらの古墳は、井ノ内3号墳が少し時期が古くなりますが、他は全て6世紀前半代のものです。

6世紀前半という点、継体天皇が乙訓に宮を造った時期と重なってきます。

この時期に井ノ内に古墳が多数築かれたことと、継体天皇が乙訓を足掛かりとして大和へ入ったこととは関連があるかもしれません。

周辺の竹やぶにはまだ調査されていない芝古墳群（地図左上の○印）や、まだ見つからない古墳もあると考えられているので、今後新たな発見が期待されます。